

佳作

『エジソン』を読んで

福島県 会津坂下町立坂下東小学校三年 棚木 健大

ぼくが読んだ本は、『エジソン』です。どうしてこの本をえらんだかというと、エジソンがどんなことをした人なのかを知りたかったからです。エジソンという人の名前は聞いたことがありましたが、何をした人なのかは、あまり知りませんでした。

エジソンの本当の名前は、トーマス・アルバ・エジソンです。エジソンは、子どものころからじっけぬぐ時に、どうしてパチパチと音が鳴るのか、ネコの毛でも同じようになるのかという疑問を、本物のネコをつかっただけで済ました。そして、そのパチパチはせい電気というもので、電気のなか間の一つであることを、エジソンは学びました。科学のベン強やじっけんが、ますます大すきになり、家の地下にじっけん室まで作ってしまいました。そして、エジソンは、人びとのくらしが安全でべんりになる

ように、すぐにはきえない電球を作るけんきゅうをします。

ぼくが一番いんしょうにのこった出来事は、エジソンがなるべく長い時間光りつづける電球をつくるために、京都の竹をフィラメントに使ったことです。世界中の竹を調べましたが、日本の京都の竹を使ったものが一番長く光りかがやくという大発見をしたのです。エジソンは遠い国のすぐあたまのよい人の話だと思って読んでいたのに、エジソンの大発明に日本がかんけいしているとは、思いませんでした。自分がすんでいる日本の竹を使っていたことを知って、エジソンを身近に感じました。そして、日本の竹を使っていたことにおどろきました。

この本を読んで、身近ない外な物から大発明ができるかのうせいがあることを学びました。ぼくも、手にもてる小がたのせん風きを使っている時に、前からは風がくるけれど、後ろからは風をすっていることに気づいたことがあります。それを使って、つくえの上のけしゴムのかすをあつめられるのではないかと考えました。じっさいには、そううまくはいきませんでした。何かのヒントにはなりそうです。エジソンも何回もしっぱいしていたので、ぼくのしっぱいも、むだにはならないと思います。ぼくも、

みの回りのいろいろなものを調べて、エジソンみたいな大発明ができる大人になりたいです。